

健康福祉部会主催事業

手づくりこんにやく料理教室開催

去る7月8日(水)湯田公民館において健康福祉部会企画主催のこんにやく作り料理教室を行いました。募集人数は20名でしたが、残念ながら応募の参加者はわずか5名でした。しかし部

会の参加者を含めると10名ほどの参加者となり、手間のかかる作業が多く指導を行うにも大変時間がかかり、生徒数としては良好だったのではないかと思います。

皆さんは、こんにやくは知っているても原料の芋の形とか、どのように栽培され、育つのかなど興味津々でいろいろと質問が

出ました。部会員の中からはこんにやくを作るための入れ物(バット、タッパー)の代わりに、牛乳パックの再利用を提案され、これは好評でした。

今回は、こんにやく芋の冷凍も

のを使用しましたが、加工が難しく、加工が難しく

ミキサー(フードプロセッサ)に頼ってしまいました。参考までに生芋はすりやすく、粘りがあり、加工しやすく、美味しい仕上がりになると思われます。

こんにやくの作り方にも色々あり、おろし金で水の中にすり



おろし、時間をかけて練り上げる方法と、ミキサーに頼り50度くらいのお湯に浸し、短時間で練り上げる方法があります。

材料は、500グラムのこんにやく芋に対して、(皮は剥いても剥かなくてもよい)凝固剤4グラム(水酸化カルシウム又は貝殻焼成カルシウム)と良質の水です。わが国の伝統的な食材であり、日本料理の引き立て役であるこんにやくの価値を知る料理教室となりました。

故郷散策

鍛冶屋街道を歩く

9月21日(月)の祝日に「故郷散策 鍛冶屋街道を歩こう」イベントがあった。主催は下草野公民館、共催は下草野地域づくり協議会と下草野郷土史研究会の三者が企画実施したもので、市内各地から30名ほどの参加者があり盛況であった。

鍛冶屋街道とは江戸時代からの道で、草野谷から徳山へ下り、西主計から三田町を

経て相撲町から十里街道を通り長浜町の市街地を最短で結んだもので、人々が薪や木炭を荷車に積んで、長浜方面に販売に出かける道であった。長浜城歴史博物館長太田先生の案内で、今町の「鍛冶屋街道」の説明看板のある地点から出発、三田町地先で姉川に架かる「三田村橋」の看板を確認、この橋は姉川を渡る古くからの唯一の木橋で、今村橋



が出来ると、その方が交通量が多くなり、昭和9年ごろに無くなった。道は条里制のあぜ道を三尺幅で直角に折れ曲がったり、斜めに直線で結ばれていたりして鍛冶屋集落へと続く。現在は圃場整備でほとんど消失し、左上の写真は西主計の町内に現存する数少ない古道で、民家の軒先を通っている。東主計、南郷など村の中を抜けて、徳山神社の鳥居前の石燈籠のところが一服場であったという。徳山では、有志のグループである環境保全会の皆さんに迎えられ、新米のおにぎりや地場の産物の漬けものなどをいただいた。【写真左下】「限界集落といわれて坐して死ぬより、元気な地域にしよう」と9年前に有志9人がグループを立ち上げ、草野川堤防沿いの約1キロに5万本の彼岸花の球根を植えられた。今年は見事な花の道となり、マスコミも取り上げ、他府県からの見学者もあったという。【写真右】



現在戸数は25戸、子ども二人という徳山住民の町おこしへの意気込みと、その原点を見たような気がした。(S)